

令和6年度 すくわくプログラム実践報告

第2府中保育園の実践報告を紹介致します

当園では各セクションごとに年に1回保育の実践報告を行い、より良い保育につながるよう研修を行っています。保育の取り組みについてご紹介させていただきます。



『つながり』
～子ども保護者、地域、保育園の
つながりを深められるように～

①買ってよかった
我が家の
ベストバイ商品



フリーは、園が円滑に回る支援も役割の1つです。そのお手伝いとして『保護者の方との繋がり』を考え情報ボードを作成致しました。お忙しい中、保護者の皆様にもご協力を頂きありがとうございました。回答はルクミーお便りでも送信し、いつでも見返せるようにするなどした

結果「活用ができて」「遊び場所に重宝している」との声を頂きました。今後も保護者の方と保育園をつなげる架け橋になれば幸いです。

保健

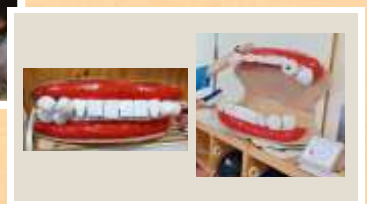


『やりたい！ やってみよう！ できた！ を引き出す』
～参加型保健指導の取り組みを通して～

『自分の身体は自分で守る』これは保育園でのねらいです。そのためには多くの知識が必要であり、看護師による保健指導が大切になってきます。参加型の保健指導はとても楽しくワクワクします。また『実体験』が子どもたちに生きてきます。これ以外にもぶくぶく指導や手洗い指導。くしゃみが飛散する距離を知らせ実感させてどうしたらいいか伝える。『楽しい。やってみよう』と子どもの好奇心をくすぐる保健指導は、『自分の身体を守る知識』に繋がっていくことを感じています。



● 新生児と同じ重さの
『すなぶくろたろうさん』



● 歯科指導では
『大きい(歯)さん』が大活躍

だいちぐみ 『見て聞いて触って 好奇心旺盛な 子どもを育てる』



0歳児の基礎は「人が大好き」の気持ちを育てることです。カラービニールシート・重さ袋・様々なマラカスなどの手作りおもちゃを媒介とし、光の不思議や音の違いを感じたときには子どもたちは必ず大人を見ている。これは自分の思いを知ってほしいという現れです。一緒に思いを共感することで『この人が大好き』の気持ちが育まれ、保育者のまなざしの中でまた『やってみたい』という挑戦の気持ちが大きく育っていきました。



ほしぐみ 『自分でやりたい 気持ちを育む』



子どもたちの育ちの中で、『自分でやりたい』『自分でできた』の経験が沢山できることを大切に、毎朝行っている『リズム遊び』やペットボトル平均台などを使って身体を動かすことを楽しんできました。できるようになって楽しい、できるようになって嬉しい、次はなにをするのかなというワクワク感、期待感も子どもたちの表情が豊かになり言葉が生まれてきました。イヤイヤの姿が見られてきた子どもたちの姿も含め、大きな成長を感じます。



そらぐみ 『個から集団へ』 ～遊びを通じて多角的に アプローチし期待をもって 活動できる子ども～



来年は幼児クラスになるそら組。子どもたちのワクワクする気持ちを育てながら、『皆と遊ぶ経験』を段階を追って行ってきました。最初は音が止まったらフープに入る遊びからはじめ、『電車ごっこ』『だるまさんがころんだ』など広がり、「次は何をするのかな」という期待感から一生懸命に話を聞く姿が見られる様になったことも大きな成長です。

そら組は・・・

乳児クラスとしては最後の学年
来年からは幼児クラス！



幼児クラスでは何事にも
期待を持って活動に参加
できるようにしてほしいな



調理



『五感を豊かに』 ～食に興味を持つ子どもに～

保育園の給食とおやつの人気は不動です。朝から園全体に給食のいい匂いが漂っています。去年は、食べ物を触って感じる『触覚』でしたが、今年は『嗅覚』に焦点を当てました。日頃から知っている果物などのおいをかぐことで認識があがりました。年齢が上がるにつれ「バナナのおいがする」と正解率も上がりました。食事だけではなく、さまざまな方法で食への興味関心が持てる活動を今後も行っていきます。

方法①

対象：3・4・5歳児クラス

- ・視覚の情報遮断した状態で、嗅覚のみで食材を当ててもらう。
(今回はガチャガチャの黒色・緑色のカプセルを使用)
- ・食材の名前を言葉にする。
- ・食材が思い浮かなくても、自分の言葉で表してもらおう。



五感を刺激した食育



つきぐみ 『微細運動に繋げる遊び』 ～はさみ・はしが使える ようになることを目指して～



微細運動とは、手指の細かい動きのことで、身の回りのことをするために必要な動きです。はしやはさみが使えるために、ペットボトルのキャップ回しやゴム掛けあそびなど楽しみながら手先の遊びを充実させながら、大きく身体を動かす遊びと併用することにより微細運動につながることを意識し取り組んでいきました。その結果、はさみがスムーズに使用できるようになり、筆圧が強くなり波線やぐるぐるの円などの描画活動でも成長が見え、手先の操作性の発達が大きく感じられました。

つかんでみよう！

開けたり、
閉めたり、



身体を大きく動かすことも大切！

サーキット

走る
(鬼ごっこ)



ケンケンバ
前転

バランス

うみぐみ 『遊び』



～遊びを通して友だちとの関係を
深め人とのかかわり方を知り学ぶ～

4歳ぐらいになると友達とイメージを共有し、遊びを考え発展させる力を備えてきます。担当がままごとの手作りグッズにあえて素材を使い『焼き鳥屋さん・かき氷屋さん』に発展し、楽しんでいました。開店に至るまでには、友達と自分のイメージが異なることや、役割分担の不満などから言い争いになることもあります。その過程は大切な時間であり保育者が仲立ちとなり、子どもの力で解決していく力をつけていけるようにすることで『友達と協力する力』や『遊びに必要なことを想像して考える力』を育てていく機会にもなりました。



● 自慢のかき氷器で
『いらっしゃいませ』



● 広告の棒に毛糸を
巻き付けた焼き鳥

たいようぐみ 『一人一人の個性を 認め合う集団づくり』 ～子ども同士で想像し 解決していける力を目指す～



今『レジリエンス』という言葉が注目されています。これは困難にぶつかった時に自分で立ち直る力です。しかし立ち直るきっかけは友達がつくってくれることも少なくありません。5歳児では一人一人がかげがいのない友達であることを子どもたちに意識してもらうため、友達のいい所を探せると花びらがつく『すてきの木』を作っていくことや『保育園のリーダー』であることを意識するため異年齢交流などを通して育んできました。クラスの話し合いなどを重ねる中で『友達』の意識は強くなっていきました。

まずは互いを認め合うことから

取り組み！



すてきの木

ねらい

- 互いの良い所を発表し合うことで、正しいことの基準を知る。
- 発表する姿勢・聞く姿勢を理解し身に付ける。
- 『素敵だね。』『ありがとう。』という言葉を沢山伝えることで自己肯定感を育んでいく。

指先を使って集中をすることで
落ち着き効果も。

花びら切りは子どもたちも一緒に

一歩ずつ育まれていく心の成長



ちびっこ運動会でお手伝い 役割分担をしながら玩具の掃除

異年齢児交流

お正月遊びの会の様子

